

★Supported by the National Garden Scheme in the U.K.: 英国 The N.G.S.後援

～The N.G.S. Japan～

一般社団法人N.G.S.ジャパン

～2023年春、私の思い～



## ★「老い」という豊かさ★

コロナが漸く落ち着いてきましたが、With コロナの生活を余儀なくされるこれからの時代、更にロシアのプーチンによる終わりの分からないウクライナの残虐な侵略戦争、6万人近く死者が出たトルコ・シリア大地震、ミャンマーの内戦とロヒンギャの難民問題、アフガニスタンのアルカイダの不穏な動き、気候の温暖化現象による世界規模の自然の大災害などなど、世界を見渡すとあまりにも衝撃的で絶望的なことばかりで、暗澹たる気持ちで一杯になってしまいます。

しかし、そのような不安の中でも私たちには毎日の暮らしがあります。「時」は日々の暮らしとして否応なしに流れていきます。高齢化社会に突入している日本では、「こども家庭庁」を創設し「異次元の少子化対策」を政府は打ち出しています。でも、その両輪の対策として「高齢者に救いの手を」と切に願っています。

「老いること」、私は、つい先ごろまで、「心は若者、でも身体はそれなりに」と笑いを取るために皆さんと近況報告する中でいつも言っていました。でも本格的に「老い」を感じる時があります。それは、私の場合は「目」にきました。電球や電燈、特にLEDの電球は眩しくて全体はまるでヴェールに包まれたようにかすんで見えます。夜道の対向車のヘッドライトの何と眩しいことか、何もかも見えなくて怖いくらいです。この「老いる」ことへの恐怖に時々涙が出てきたりもしました。でも『出来ない』を嘆くのではなく、『出来る』をいっぱい思うようにしなさい」とある専門家がおっしゃっているのを思い出しました。そして、『出来ない』を嘆くのではなく、それをカバーするためにその代わりになることを工夫してみよう。」と思いました。そうすると『手』がとても力強い味方になってくれることに気が付きました。いつも動作に「手」を添える事が増え、おのずと振る舞いが慎重にゆったり

となり、今まで見えなかったことが見えてきて「気づき」も生まれてきました。いま私にとって「手」が何よりも掛け替えのない「相棒」になっていて大切でとても有難いものです。そして、先日、ある天気の良い日に買い物へと真っ直ぐに続く道を歩いていました。空を見上げると太陽が眩しかったのですが、見下ろすとその一本道は眩しくなくはっきりと遠くまで見通せるのです。人工の光はとても眩しいです、しかし太陽の自然の光は眩しくなく安全に歩くようにとその自然の光は私を導いてくれていると気づきました。昔、祖母が天気の良い日に空を見上げて、「ああ、お天道様、有難うございます。」と拝んでいた姿を思い出しました。その時、正に私も太陽に感謝しました。今までは気づかなかった自然光の有難さを「老いる」ことにより気づいたのです。私は、今では、「老いる」ことは日々の暮らしに細やかな気付きを与え、豊かにしてくれていると強く感じています。「日々をゆっくりと豊かに」と肝に銘じて辺りを見渡すと愛すべきお花達が可愛らしい蕾をほころばせ、もう咲き出しそうにしてくれています。愛すべきお花達は何にも言わずに私の心にそっと寄り添い安らぎを与えてくれます。そのお花達はいつも私たちに静かな愛を与え続け、更に「チャリティのオープンガーデン」を通して社会との繋がりまで与えてくれるのです。愛すべき花々の偉大さに、「私の一生の宝物！」と心から感謝の気持ちで一杯になります。

N.G.S.ジャパンの「お庭という美しい癒しの中で、より多くの皆様に、楽しんで頂き、感動して頂き、その幸せのお裾分けとして『チャリティ』という小さな幸せたちに社会のために活躍してもらおう」活動を、今年も皆様の温かなご協力ご支援そしてお優しい御心を頂きながら行ってまいります。今年も12月には横浜市イギリス館で「クリスマス・チャリティ・コンサート」を予定しています。詳細な日程など決まりましたら、又お知らせさせていただきます。至らないことばかりですが、今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

感謝と共に心より御礼

(社) N.G.S.ジャパン

代表 谷口 多美江

